

ぐんぐん↑↑

R4.11.29

第 12 号



↑ 本校 HP

初霜の候、ますますご盛栄のことと思います。保護者の皆様には本校の教育活動や家庭での学習活動にご理解ご協力いただき、ありがとうございます。いよいよ12月、がんばりましょう。

◇◇学年別の勉強のコツ◇◇



2学期も残すところあとわずかです。明日からは4, 5, 6年生は「佐賀県学力・学習状況調査」があります。これも含め12月という時期を、学習したことが身に付いているか、自分の力として使えるようになってきているかを確認める時期にしてほしいです。

今号では各学年の学習の特徴やポイントを国語算数中心に紹介します。これで、子ども達の学習の様子や内容を一緒に確認していき、みんなでどかんとパワーアップしてほしいです。

一・二年生

<国語>

まずは、ひらがなやカタカナをすらすら正しく使えるようにマスターすることです。それに1年生では80字、2年生では160字ある漢字も同様です。繰り返し書くのは大変だと感じやすいですが、文章で書いたり、成り立ちを一緒に覚えたりと学習の中で楽しく取り組むといいです。

文章読解のポイントは、「だれが、いつ、どこで、何を、なぜ、どのように」の5W1Hをおさえながら、音読をすると、内容理解が進みます。

<算数>

算数では、「繰り上がり」「繰り下がり」「筆算」「九九」といった、この先の計算の基礎となる部分を学習します。具体物を使うなどして、頭の中でイメージして計算をすると分かりやすいです。九九や簡単な計算はリズムで覚えてしまってもいいです。ただ、九九や計算はできても、文章問題になるとできなくなる子も多いです。これは、読解力やイメージする力でもあります。日頃の読書を充実させて文章を理解する力を養いましょう。

→低学年は、基本的な授業への構え、学校や家庭での学習習慣を身に付ける大切な時期です。「先生の話聞く」「ノートは後で分かりやすく書く」「帰ったら学習をする」などの習慣を低学年のうちに身に付けると勉強に対して抵抗感が低くなり、自分から学習にむかえるようになります。

三・四年生

<国語>

内容が少しずつ難しくなります。3, 4年生で学習する漢字は400字とボリュームがあります。文章問題も低学年よりも長く複雑になっていきます。漢字と読解と両方の力を育てるため、中学年までに安定した読書習慣を身に付けたいです。

「たくさんの文字、言葉に触れる」ことが大切です。また、学習した漢字や言葉はどんどん使い、書き慣れてほしいです。パソコン入力にも使うローマ字も3年生で初めて出てきます。

<算数>

3, 4年生ではわり算や分数、小数、角度といった新しい考え方が登場します。つまづきやすい内容なので、そういう時は日常の中(食事の時など)から問題に置き換えて考えてみるといいです。コンパスや分度器などの道具も正しく使えるようになる必要があります。

授業のノートに自分の考えや友達の考えなどが書かれることが増えるといいです。分かりやすく書いて、次の授業に生かすようにします。

→中学年では、学校生活に慣れてきた半面、理科、社会、総合的な学習の時間、外国語活動など新しい学習が始まり、最初のうちは子ども達も戸惑いやすいです。どれも経験や体験が学びに結びつきやすいので、1つ1つの学習活動を大切にしてほしいです。また、子ども達自身の興味関心が様々になるので、何か興味があればどんどん取り組ませてみましょう。何かに熱中して取り組むことで自身の学習の調整力や粘り強く取り組む力を育てることにつながります。

五・六年生

<国語>

学習内容が複雑化します。文章問題では抽象的な表現や説明を求められるなど、より一層の読解力が必要です。また、単純に文章の量が多いので、早く文章を読むことが求められます。要約や読解などでは文章全体を素早く理解し、ポイントを見つけることが大切です。そのためにも、普段から文字の多い本やいろんな種類の本の読書に慣れておくことが重要です。

漢字も2年間で366字を新たに学習します。社会科で出る都道府県の漢字も覚えましょう。

<算数>

分数や少数の四則計算(+・-・×・÷)、図形、立体、面積、体積、比例・反比例、速さ、割合、平均などを学習します。特に、分数の計算や割合はつまづきやすい内容です。その内容につながる過去の学年での学習内容の復習からすると理解が進みます。図形や立体などはその特徴や計算に必要な公式を覚え、いつでも使えるように、とにかく問題量をこなしてほしいです。そのためには、宿題だけでなく、家庭での学習の充実が大切です。この習慣が中学校でも必ず役に立ちます。

→高学年では、低学年から中学年と学んできた内容をさらに発展させ、中学校の準備段階となるような学習をします。この時期に小学校での内容をどれだけマスターできるかがこの後の学習を左右します。中学生、高校生となった時に、「ああ小学校の時にもっと勉強しておけばよかった！」と後悔しなくていいように、どの教科もどの内容もこの時期におさえましょう。

また、5年生から外国語活動が英語として教科になり、英語での話す聞く書く読むの基本を行います。中学校の英語につながるように、基本的な言い回しや単語を覚えるといいです。

◇◇「佐賀県学力・学習状況調査」…その③◇◇

今回は6年生の問題からです。右の国語の問題のような問題は4、5年生でも出てきます。「条件に合わせて書きましょう」という問題では、それらの条件に1つでも合っていないと、正解となりません。特に、文末表現や理由の書き方などには注意しないといけません。

算数では説明をする際に、「次の言葉を使って書きましょう」という問題が出ます。いわゆるその教科独特の用語です。その言葉の意味をしっかり理解して使える必要があります。ただ、難しく考え過ぎず、シンプルに答えることも大切です。

【あきこさんの計算の仕方】

$$\begin{aligned} \left(\frac{4}{5}\right) \div \left(\frac{2}{3}\right) &= \left(\frac{4}{5} \times \frac{3}{2}\right) \div \left(\frac{2}{3} \times \frac{3}{2}\right) \\ &= \frac{4}{5} \times \frac{3}{2} \div 1 \\ &= \frac{4}{5} \times \frac{3}{2} \\ &= \frac{6}{5} \end{aligned}$$

※ 間違えやすい「分数のわり算」です。左の式を見て、どういふ計算の仕方なのか、意味を説明できますか？

つばささんとあきこさんは、【つばささんの計算の仕方】と【あきこさんの計算の仕方】の()の部分を見ながら、分数÷分数の計算の仕方についてまとめようとしています。

【分数÷分数の計算の仕方】の()の中に、(おられる数)、「わる数」、「逆数」の3つの言葉を使って書きましょう。

【分数÷分数の計算の仕方】

分数のわり算は、

()

※条件に合うように解答する問題はどの教科にもあります。

四 【話し合いの一部】の中で、あなたは、全校のみんなに知らせる方法について、「放送」「ポスター」のどちらかを選んで自分の考えを語ろうとしています。どのように話すといですか。その内容を、あとの【条件】に合わせて書きましょう。

あなた わたしは「
「で知らせる」という意見に賛成です。」

【条件】
○ 全校のみんなに知らせる方法として、「放送」「ポスター」のどちらかを選んで、
○ 山下さんの発言(「話し合いの一部」の……)部のように、あなたが賛成する友達の意見を取り入れた上で、
○ あなたの選んだ方法について、考えを付け加えて理由を書くこと。
○ 発言するように書くこと。